

■4 研究に関する事項

第5次長期計画初年度となる2010年度は、これまでの第4次長期計画における研究関連事業の実績と経過の反省を踏まえ、政府の第三次科学技術基本計画や研究を取り巻く諸情勢を視野に入れながら、21世紀に龍谷大学が世界に通用する先進的で卓越した教育研究機関として広く認知されるべく研究の推進を図る。

第5次長期計画の実現に向けては、「強みのある研究と特色ある研究を推進するための環境整備」「研究評価制度の構築」「社会から評価される研究の推進と外部資金の確保」「研究成果の社会に向けた発進力強化」「研究支援体制の整備と新展開」を研究事業計画の柱として積極的な事業展開を行っていく。

1 強みのある研究と特色ある研究の推進

●「人間・科学・宗教」知の融合

「人間・科学・宗教」の3つの知の融合を目指し、引き続き国際社会に目を向けた研究の個性化と特色化を実現するため、人間・科学・宗教・総合研究センターにおける研究プロジェクトを中心として研究を推進し、研究成果の教育や社会への還元に努めながら国際的に期待される研究を展開する。

●強み・特色のある研究の推進や研究拠点の形成と人材育成

文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業や学術研究高度化推進事業等への積極的な取り組みを行う。2010年度は継続事業として「地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター」「古典籍デジタルアーカイブ研究センター」「里山学研究センター」を、学術研究高度化推進事業として「革新的材料・プロセス研究センター（HRC）」「情報通信システム研究センター（HRC）」を実施する。また、新規事業として「アジア諸地域における仏教と多様性とその現代的可能性の総合研究」（アジア仏教文化研究センター 代表：桂紹隆文学部教授）「死生観と超越－仏教と諸科学の学際的研究」（人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター 代表：鍋島直樹法文学部教授）を申請する。

また、大学間共同利用機関人間文化研究機構が実施する地域研究推進事業として採択された「現代インド拠点」を5年間の委託研究事業としてスタートさせるとともに、本学の強みのある研究と特色ある研究として「混一・暹理歴代国都之図研究プロジェクト」を引き続き実施する。

2 研究評価制度

●研究評価の実施

適正かつ公正な研究評価制度により研究活動をより充実させるため、これまで実施してきた研究機関に対する外部評価を継続して行う。2010年度は2009年度をもって補助研究期間終了した「人間・科学・宗教オープン・リサーチ・

センター」「アフラシア平和開発研究センター」「矯正・保護研究センター」を対象とした事後評価を実施する。また、評価制度の充実を図るため付置研究所に対する評価制度について検討を行う。

3 社会から評価される研究の推進と外部資金の確保

●学外資金の獲得

研究成果の情報発信や外部研究資金の確保など、一定の社会的評価を得ることが求められることから、出来る限り学内資金に依存することなく研究の財源を確保していくために、これまで以上に科学研究費補助金等の公的補助金及び企業等からの受託研究費等の外部資金獲得に積極的に取り組んでいく。

科学研究費補助金は毎年度国家予算額が増額していることに鑑み申請件数、採択件数ともに増加させることに努め、2009年度に引き続き補助金額1億円以上の獲得を目指す。

4 研究成果の社会に向けた発進力強化

●研究者データベースの構築と活用

各分野で多様な研究の取り組みについて研究情報を集約し社会発信する必要から、これまでの独立行政法人科学技術振興機構のReaD研究者データベースに加え、本学が導入する自己点検・評価データベースシステムに連動した独自の研究者情報データベースの構築に取り組む。また、集約された情報を活用し、社会に対する訴求力を強く積極的な情報発信のための研究に対する広報体制の強化を図る。

5 研究支援体制の整備と新展開

●研究支援体制の整備

研究者の研究意欲や能力が十分に発揮できる環境を整備するために、研究に関する事務支援体制の強化に努める。特に昨今は、競争的資金に係る制度改革が進められているため、研究活動の成果や情報を収集・分析し、各研究者の独創的な研究成果をそれぞれ有機的に連携させ、大学の個性と特色を活かした研究を支援する体制構築を目指す。

●基盤研究、萌芽的研究の強化充実

研究活動を充実していくために、個人研究費や付置研究所における研究を推進することにより多様な研究分野における萌芽的研究や基盤研究を強化し、すべての研究者の研究機会をある一定の基準で公平に保証をしながらも、各研究者の研究分野・状況や所属する研究プロジェクトの進捗状況等を勘案し、研究をより一層推進できる体制を確保する。

●付置研究所のあり方

4つの付置研究所の有する諸課題を整理しつつ、基盤的研究の強化を図り、その成果を発展・展開していくために「研究所の独自性」「研究課題の多様化」に考慮した本学の研究基盤としての機能を果たしうる新しい研究所の実現に向けて研究所等の支援・運用体制の見直し、強化を図る。